

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	プラムだいすき		
○保護者評価実施期間	2026年 1月19日		～ 2026年 2月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	2026年 1月20日		～ 2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	(環境・体制整備) ・子どもたちが活動するのに十分な部屋数とスペースを確保している。 ・職員は、常に基準数以上を配置している。	・子どもたちが分かりやすく利用しやすいように、表示や名称をつけている。 ・利用の仕方は提示してあるが、利用者の希望に沿って、柔軟に利用している。 ・部屋数が多いので、刺激過多にならないでよい。 ・子どもたちのことを目を離さないで、見守れるようにしている。 ・取っ手や教材等、清掃、消毒、整理整頓に努めている。	(環境・体制整備) ・さらに、より良いサービス提供ができるように、職員の増員へ向けて公共職安等へ働きかけを進める。 ・職員の対応力向上に努める。
2	(業務改善) ・毎朝の打合せや定期的な会議を設けている。 ・長期休業中は記録簿の閲覧や伝言板を用いて情報の共有化を図っている。 ・保護者からよい評価をもらっている。	・職員の運営への参画意識は高い。 ・保護者からの評価や意見を業務に反映させている。 ・全職員で課題について話し合い、改善策を出している。 ・職員研修は出張扱いとし、費用は法人がもつことを原則としている。研修会参加後は伝達講習会を実施し、研修内容の共有化を図っている。	(業務改善) ・保護者や職員の意見に傾聴する。 ・研修会等への参加を進め、更に職員の支援力を高める。
3	(適切な支援の提供) ・利用している子どもの実態や課題の把握、支援内容や方法の整理に努めている。 ・活動が硬直化したり、偏ったりしないようにしている。 ・子どもたちが安心感をもって、通所を楽しみにしてくれているところ。	・細やかな打合わせや支援体制の確認ができています。 ・保護者へ子どもたちの様子や情報提供に努めている。 ・実態や課題は、日々の観察や記録、打合せでの振り返りによって確認している。保護者から提供される発達検査等の結果も参考にしている。 ・リトミック・パステルアート・エアロビク教室など、外部講師を招聘して活動を行っている。野外での活動も取り入れている。 ・長期休業中には、体験的な活動を多く計画し、取り入れている。 ・利用児の特性に合わせた言葉かけや接し方に気を付けて対応している。	(適切な支援の提供) ・活動の目標、目的、内容、方法、評価について集団内での個別化を進める。 ・今後とも、変わらずに継続して行う。 ・異性、異年齢集団での集団活動も取り入れを検討する。 ・今後とも来所を楽しみにしてもらえるように活動を考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	(施設設備) ・事業所施設は、バリアフリー、ユニバーサルデザインになっていない。 ・清掃は職員が行っている。	・賃貸物件を利用した事業所の限界。  ・エアコンなどの清掃は、定期的に専門業者に依頼してはどうか。	・職員による清掃と業者による清掃と併用を検討する。
2	(家族支援) ・保護者会を設置していない。 ・ペアレントトレーニング、利用者家族や利用者家族間の積極的な支援を行っていない。 ・家族参加の行事を行っていない。	・家族参加型には、どのような活動、行事が考えられるだろうか。 ・家族参加行事の場合、事故等の対応はどのようにするか。 ・家族参加の行事は、土・日・祝日の開催が考えられる。 ・職員の勤務の都合上、土・日・祝日の開催は難しい。	・保護者会設置については、要望によって対応を検討する。 ・療育について相談があれば、真摯に対応する。
3	(移行支援、地域交流) ・他の学童クラブなどとの交流活動は行っていない。 ・地域住民との積極的な交流は図っていない。	・交流活動は、相互に益が生じるよう計画的な取り組みが必要である。	・近隣地域の公共施設利用を図る。 ・系列事業所職員との連携や利用児との共同活動を取り入れる。 ・事業所側から地域への働きかけや出かけていく取り組みを図る。(近隣での清掃活動の実施、地域行事への参加、公民館まつりへの参加、他の放デイとの交流など)